

比較教育学教育に関する比較研究

二宮 皓・佐藤 仁・金井裕美子

(2006年10月5日受理)

A Comparative Study of Teaching Comparative Education

Akira Ninomiya, Hitoshi Sato, and Yumiko Kanai

The purpose of this paper is to characterize the comparative education subjects offered in different programs in different foreign universities. As a subject, comparative education has not been firmly institutionalized in education programs in Japanese universities. There was a movement which aimed at making comparative education as one of the mandatory subjects in the teacher training program, however it was not successful. To date, comparative education subject has been offered in various programs in universities without questioning its appropriateness in each program. Thus, this paper considered the importance of teaching comparative education in relation to a particular program.

To consider how a comparative education subject can be appropriate to a certain program, the researchers made use of the programs in Japanese universities where comparative education is being taught, namely: liberal arts education, teacher training, and specialized area study. The researchers attempted to classify the data on comparative education subject using the three programs. The data were collected from different universities in different countries mainly through the internet and partially through field work. Among 269 cases (i.e. comparative education subject) which were found, 176 cases were analyzed and classified since they have clear description within a certain program. The analysis and classification of the cases took into account the nature of universities in different countries. As a result, 11 cases were classified under liberal arts in the undergraduate program level. 69 cases under teacher training course specifically, 38 cases in bachelor level and 31 cases in graduate level. 112 cases under specific area study, 43 cases in bachelor level and 69 cases in graduate level. Discussion on the similarities and diversity of the subject between and among the three types of programs was given.

Key words: comparative education, higher education, curriculum

キーワード：比較教育学，高等教育，カリキュラム

はじめに

本稿の目的は、諸外国における比較教育学の授業に関し、そのカリキュラム上の位置づけおよび授業内容・目的の特徴を明らかにすることにある。

これまで、わが国においては比較教育学教育の実態調査を踏まえて、一定の特徴ないし傾向を見出そうとする研究が行われてきた¹⁾。それらの先行研究では、

他の教育学分野の授業に比べて比較教育学の授業の開設状況は芳しくないことが指摘された。その原因として、他の教育学分野科目のように教職課程において必修科目として位置づけられてこなかったことが挙げられている²⁾。そのような中で、比較教育学の学科目や講座の新設が無理だとしても、授業科目としての比較教育学を開設する努力をするべきであるという見解が示されていた³⁾。

比較教育学の授業に関して、わが国における実際の開設状況を見ると、教職課程における選択科目として開設されている例もあれば、いわゆるゼロ免課程の科目として、さらに全学共通の一般教養、および総合的科目としても開設されている状況が明らかにされている。また、言語教育の基礎課程として位置づけられている例などもある。このように多様なカリキュラム上の位置づけがなされており、授業担当者によるそれぞれの位置づけに応じた内容構成の工夫が求められているところである。

しかし、授業担当者が内容構成を工夫する場合、手引きとなるような比較教育学教育の情報は、十分にあるといえる状況ではない。そのために、比較教育学の授業の情報交換が日本比較教育学会でも呼びかけられてきたが、利用可能な情報は限られている⁴⁾。そこで本研究では、諸外国の比較教育学の授業に目を向け、その授業のカリキュラム上の位置づけにより分類した上で、異なる位置づけにある授業内容の特徴を明らかにすることを目的とする。その一端として、本稿では、特にカリキュラム上の位置づけに着目して分類を行い、類型ごとにデータから明らかになる範囲で授業の内容および目的も取り上げて比較し類型ごとの共通性や差異性を考察する。

比較教育学教育の国際的調査としての先行研究としては、まず、アルトバックらの調査が挙げられる⁵⁾。同調査は、比較教育学に関するプログラムや研究センターにおける教育に焦点化した質問紙調査であり、比較教育学教育と比較教育学研究の関係性についての考察を加えている。また、近年では、北米を始め各国の比較教育学教育の情報を収集、分類したロヨラ大学の院生による共同研究 Comparative and International Education Course Archive Project (CIECAP) が挙げられる⁶⁾。CIECAP は、比較教育学教育の情報を収集および分析し、データベースとして公開することにより、比較教育学教育の発展に資することを目的としている。2006年6月現在、42例の授業科目の情報を分析し、公開している点で本研究の関心に近いが、カリキュラム上の位置づけは分析項目にないこと、また、北欧とアフリカの4例を除いて全て英語圏の事例であることが、本研究と異なる点である。

1. 情報の収集と分類

本研究のデータは、広島大学大学院教育学研究科比較・国際教育学研究室のメンバーが中心となり、2004年9月から2006年5月までに収集されたものである。27の国・地域の大学に関して、主としてインターネッ

トにより大学のホームページにアクセスし、「比較教育学」または「比較国際教育学」を名称とする授業の情報を収集した⁷⁾。調査対象としたのはフランス、イギリス、ドイツ、フィンランド、スウェーデン、ベルギー、スペイン、スイス、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、サモア、台湾、中国、インドネシア、ベトナム、タイ、カンボジア、サウジアラビア、ヨルダン、シリア、レバノン、パレスチナ自治区、アルゼンチン、エジプト、リビアである。これらの中で、ドイツ、中国、タイ、インドネシア、ベトナム、サモアにおいては現地調査を行った。インターネットによる調査および現地調査の結果、2006年5月22日現在、22の国・地域の大学における269事例が確認された。それらの情報の内容は、授業名のみ確認できたものから詳細な授業計画を閲覧できたものまで様々である。その中で、本稿では、少なくとも当該授業が履修科目となっている課程・専攻が明確であり、カリキュラム上の位置づけが明確である176の事例を分析の対象としている⁸⁾。

国・地域ごとに調査の手段および手順や範囲が異なる本調査においては、国・地域ごとの比較教育学教育の状況が明らかにできるわけではない。というのは、インターネットにより、各国について可能な限り網羅的に大学のホームページにアクセスして検索したが、情報公開の程度は国や地域によっても差があり、それらが検索の結果に影響していると考えられるからである⁹⁾。しかし、インターネットを利用することによって、短期間に広範な情報収集が可能になった。

これら収集した情報を基に、本稿では、それらを一般教養教育と専門教育に区分し、さらに、専門教育を教職課程における教育とそれ以外の教育に区分した。つまり、「一般教養教育」、「教職教育」、および教職教育を除く「専門教育」の三類型を設定したことになる。諸外国のカリキュラムの区分は、必ずしも我が国の一般的な大学カリキュラムの区分に対応するものではない。しかし、後述するように、各国の高等教育制度、教員資格制度、各大学の組織構造などを考慮しつつ、収集した各事例を三類型に振り分けた。

分類に際し、まず収集した授業情報を学部レベル、大学院レベルの授業科目に分類した¹⁰⁾。その結果、176事例中83事例が学部レベル、91事例が大学院レベル、そして2事例が双方に重複して分類された。なお、大学院レベルには、修士および博士課程以外に、学士号取得後の課程（post-undergraduate の教育課程や資格のための課程など）における授業科目も加えた。

次に、各レベルの授業科目をカリキュラム上の位置づけから、主に、学部・学科、課程・専攻の情報を基

に、一般教養教育、教職教育、教職教育以外の専門教育の三類型に分類した(表1)。ただし、大学院では一般教養教育は存在しないので二類型となっている。また大学院における教職教育は、教員養成ではなく現職教育のものも含む。学部レベルでは、一般教養11事例、教職教育38事例、専門教育43事例であった。大学院レベルでは、31事例が教職教育、69事例が専門教育に分類された。事例の中には、複数の課程・専攻における授業科目となっているものがあるため、その場合は一つの授業例をそれぞれの類型の事例数に加算した。そのため、分析した事例が176事例であるのに対して分析後の事例の合計は192事例となっている。

2. 三類型における比較教育学教育

本稿では、三類型それぞれの比較教育学の授業の特徴を明確にするために、教職教育を含む専門教育のみで構成される大学院レベルの授業を除き、学部レベル

の授業を対象に分析を進める。

(1) 一般教養教育としての比較教育学の授業

① カリキュラム上の位置づけ

一般教養教育の類型には、全学部を対象として開設される授業を分類した。この類型には、オセアニア、ヨーロッパ、南米、アジアにおける事例は確認されず、アメリカで10事例、カナダで1事例が確認された¹¹⁾。うち、アメリカの7事例は、授業コードから同一の授業が複数類型に重複することが確認された。つまり、一般教養教育としてのみ確認された授業は3事例(ミネソタ大学モーリス校、カラマズーカレッジ、アドリアンカレッジ)で、その他の授業は教職教育や専門教育の授業を兼ねている。

アメリカの9事例では、比較教育学教育が属している一般教養の領域またはモジュール名を確認することができ、「グローバルの範囲：国際的視点」(ミネソタ大学モーリス校)「異文化間」(ケンタッキー大学)「多

表1. 比較教育学の授業の情報 (2006年6月19日現在)

| | 国名 | 学部レベル | | | 大学院レベル | | 合計 |
|-------|-----------------------|-------|-----|-------|--------|----|-----|
| | | 一般 | 教職 | 専門 | 教職 | 専門 | |
| ヨーロッパ | フランス | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 3 |
| | フィンランド ^o | 0 | 1 | 3 | 1 | 2 | 7 |
| | イギリス | 0 | 2 | 4 | 0 | 8 | 14 |
| | ベルギー | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| | スペイン | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 3 |
| | スイス | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 北米 | アメリカ | 10* | 3** | 11*** | 13**** | 16 | 53 |
| | カナダ | 1 | 0 | 1 | 2***** | 4 | 8 |
| オセアニア | オーストラリア | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 4 |
| | ニュージーランド ^o | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| アジア | 中国 | 0 | 1 | 4 | 0 | 8 | 13 |
| | 台湾 | 0 | 11 | 0 | 3 | 27 | 41 |
| | サウジアラビア | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | ヨルダン | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| | シリア | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | レバノン | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | パレスチナ | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 3 |
| 南米 | アルゼンチン | 0 | 2 | 11 | 0 | 0 | 13 |
| アフリカ | エジプト | 0 | 11 | 0 | 6 | 0 | 17 |
| | リビア | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 合計 | | 11 | 38 | 43 | 31 | 69 | 192 |

(注) 筆者作成。

*：10事例のうち2事例は学部教職教育および専門教育、4事例は学部専門教育、1事例は大学院専門教育に重複して分類されている。

**：3事例のうち2事例は学部専門教育および一般教養教育、1事例は学部専門教育に重複して分類されている。

***：11事例のうち2事例は学部教職教育および一般教養教育、1事例は学部教職教育、4事例は学部専門教育に重複して分類されている。

****：13事例のうち6事例が大学院専門教育に重複して分類されている。

*****：2事例のうち1事例は大学院専門教育に重複して分類されている。

文化・グローバルコース)(ロワン大学)「社会科学」(コルゲート大学, ベロイトカレッジ, スミスカレッジ, カラマズーカレッジ, アドリアン大学)「国際文化」(ペンシルバニア州立大学ユニバーシティパーク校)であった。一般教養教育としての比較教育学の授業は、従来型の区分である社会科学の授業科目として開設されている他に、「グローバル」,「国際」,「異文化」といった文言を名称に含むモジュールの授業科目として開設されている。

② 目的および内容

一般教養教育に分類された授業の中で目的が確認できた2事例では、「批判的思考能力や他国の文化に関する見識の発達」(ミネソタ大学モーリス校),「自国以外の国が教育の課題や問題にどのように対処しているのかを知る」(ベロイトカレッジ)と述べられている。

内容の概要から対象とする地域を見ると,2事例(ミネソタ大学モーリス校, アドリアンカレッジ)が複数の国とアメリカを対象とし,1事例(ケンタッキー大学)が複数の国を対象としている。次に,扱う課題を見ると,4事例で教育行政や教育制度(ロワン大学, ベロイトカレッジ, エモリーカレッジ, アドリアカレッジ),5事例で比較教育学の方法や理論(ケンタッキー大学, コルゲート大学, ペンシルバニア州立大学ユニバーシティパーク校, スミスカレッジ, カラマズーカレッジ)を扱っている。さらに,課題を扱うために用いるアプローチを見ると,2事例(ケンタッキー大学, スミスカレッジ)で「文化的アプローチ」が強調されている。特に,大学院レベルの専門教育と一般教養教育を兼ねるケンタッキー大学の事例では,次のように説明されている¹²⁾。

このコースは, University Studies プログラムの一部として, 学部生に対する包括的な一般教養教育に貢献するように計画されている。そのため, University Studies の異文化間要件を満たすものとして履修することができる。このコースは, 3つから4つの世界の文化に焦点を当てた研究を通して, 自らの文化と違う文化について注意深く考えるのを助け, 自らの文化に関する理解に異文化間的な観点をもたらすように意図されている。

一方で, この授業は, 内容的に高度であるため, 一般教養ではあるが学部高学年に推奨されている。専門教育と一般教養教育を兼ねた授業において, 双方の学生のニーズに応えるように重点の置き方が工夫されていることが伺える。

(2) 教職教育としての比較教育学の授業

① カリキュラム上の位置づけ

この類型に授業を分類する際に, まず, 各国における教員の免許・資格制度を明らかにした。その上で, 学部レベルではカリキュラム上の位置づけから教職教育であると判断される38事例を同類型に分類した¹³⁾。ただし, アメリカの3事例のうち, 2事例は一般教養教育および専門教育を兼ねたものであり, 1事例は専門教育を兼ねたものである。アメリカ以外では, 複数類型に分類される事例は確認されなかった。

学部レベルにおける教職教育の授業の38事例のうち30事例は, アジアとアフリカで確認されたものであり, 中でも大半が台湾とアラブ諸国で確認された。台湾とアラブ諸国では, 教育学系の学部における課程の修了が教員資格となるため, 教育学部における授業事例を教職教育に分類した。

専攻は, 「教育学」(サウド王大学), 「カリキュラム及び教育技術」(シリア大学), 「アラビア語」(アルバート大学), 「数学教育, 生物学教育, 幼稚園教育, アラビア語教育, ドイツ語教育, 英語教育, コンピューター教育」(10月6日大学)など, 特にアラブ諸国で多様である。履修時期としては, 14事例¹⁴⁾が4年次, 4事例¹⁵⁾が3年次, 4事例¹⁶⁾が2年次の履修科目であることが確認された。また, 4事例¹⁷⁾で必修科目であることが確認された。

② 目的および内容

授業の目的に関しては, 2事例において確認できた。具体的に見ると, 比較教育学への導入と自国の教育制度の理解(サウド王子大学), 教育分野において比較分析する能力の育成(国立台湾師範大学)が挙げられている。

内容の概要に関しては, 3事例を確認できた。各授業において対象とする国・地域としては, 「イギリス」, 「アメリカ」, 「カナダ」, 「ニュージーランド」, 「オーストラリア」, 「ドイツ」, 「フランス」, 「ヨーロッパ」, 「アジア」(以上, 国立台湾師範大学), 「スイス(自国)」および「近くまたは遠くの国」(フリボーグ大学)が挙げられている。扱う課題としては, 比較教育学の「理論および方法」(国立台湾師範大学, 東北師範大学), 「学校教育」, 「カリキュラム」, 「職業教育」, 「就学前教育」, 「高等専門教育」(フリボーグ大学)「教育政策」(コルゲート大学)が挙げられている。アプローチについての記述は確認されなかった。

(3) 専門教育としての比較教育学の授業

① カリキュラム上の位置づけ

学部レベルで専門教育に分類された授業は43事例で

あった¹⁸⁾。この類型に分類された事例は、東北師範大学の事例のように、「専門教育」であると明記されている場合もあれば、一般教養教育でもなく教職教育ではないことを確認して分類された事例もある。

確認された事例の大半が、教育学専攻の授業として開設されていた。それ以外の専攻としては、「教育管理学部、公共事業管理専攻」(華北師範大学)、「成人教育学専攻」(タンペレ大学、トゥルク大学)、「コミュニティ教育専攻」(ウイスコンシン大学ミルウォーキー校)、「国際研究専攻」(ウイスコンシン大学ミルウォーキー校)、「アメリカ学専攻」(ロワン大学)、「教育政策学副専攻」(ペンシルベニア州立大学ユニバーシティパーク校)が確認された。また、教育学と心理学共通の「基礎教育」である事例もこの類型に分類されている(ブラッセル自由大学)。

履修学年としては、8事例¹⁹⁾が4年または5年次、8事例²⁰⁾が3年次、5事例²¹⁾が2年次、3事例²²⁾が1年次以降の履修科目であることが確認された。また、8事例²³⁾が必修、14事例²⁴⁾が選択必修、10事例²⁵⁾が選択、2事例²⁶⁾が自由科目だった

② 目的と内容

目的に関しては7事例を確認できた。それらを列挙してみると、「多面的で多様な社会における比較の方法として多くの情報を利用する」(オビエド大学)、「比較研究において利用する方法を知る」(マラハ大学)、「比較教育学の手ほどきを行なう」(オウル大学)、「比較教育の基礎を理解し社会と文化の比較から教育学を学ぶ」(トゥルク大学)、「比較教育学の初歩を身につけ適用の分野と範囲を検討する」(レユニオン大学)、「方法論的アプローチを…明確に知る」(ブラッセル自由大学)、「比較研究を利用する方法を知る」(ケンタッキー大学)「カナダの教育問題について…国際的・歴史的比較という観点から議論する」(クイーンズ大学)といった目的が挙げられている。

内容は10事例で確認された。授業で対象とする国や地域には、「アメリカ、ロシア、日本、イギリス、フランス、ドイツ」(浙江大学)、「南アフリカとニューカレドニア」(カンタベリー大学)、「EU、非EU諸国」(ローハンブトン大学)、「ヨーロッパ」(キール大学)、「北欧諸国、ロシアとバルト諸国、ヨーロッパとEU」(オウル大学)、「ラテンアメリカ、アジア、アフリカ」(モロン大学)、「日本とアメリカ(自国)」(トリニティカレッジ)、「アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ(自国)」(ウイスコンシン大学ミルウォーキー校)、「アメリカ(自国)、アジア、ヨーロッパ」(パッサールカレッジ)、「カナダ(自国)」(クイーンズ大学)が挙げられている。

扱う課題としては、「比較教育学の理論と方法」が11事例²⁷⁾、「教育制度」が6事例²⁸⁾、「教育政策」が2事例²⁹⁾確認でき、さらに「基礎教育、高等教育、職業技術教育、教師教育」(東北師範大学)、「民族問題」(カンタベリー大学)、「学校教育」(ローハンブトン大学)が挙げられている。アプローチに関しては、サン・ルイ国立大学において「社会学、歴史学、経済学、政治学」が挙げられている。経済学的、政治学的アプローチは、「超国家的制度」(サン・アンドレ大学)、「グローバリゼーションの覇権」(サン・ルイ大学)といった比較的新しい言説を扱う場合、重要になるものと思われる。また、トゥルク大学で「教育の国際評価とインディケータシステム」が内容として記載されるなど、国際的な評価の時代に社会的アプローチにおける統計学的手法も重要性を増していると考えられる。

3. 考察—比較教育学教育の特徴—

これまで概説してきた情報を基に、それぞれの類型における比較教育学教育の特徴を考察する。

まず一般教養教育に関しては、全体で11事例と、それほど多く確認することができなかった。その背景には、一般教養教育が高等教育レベルでは行われないという各国の高等教育の現状とも大きく関係していると考えられる。また、分類された事例のほとんどは、教職教育や専門教育の類型に重複して分類されるものとなっている。つまり、一般教養教育のためだけに比較教育学教育が行われる事例は、わずかしかな存在しない。重複して分類されるものは、教職教育や専門教育として3年次または4年次の学生を対象としていることが多いために、一般教養としては高度に専門的な授業内容となっていることが伺える。しかし、国際的または文化的な視点を授業に取り入れている事例に、一般教養として重点の置き方が工夫されていることも伺える。

次に、教職教育としての比較教育学教育に関しては、台湾とエジプトで多く見られるが、その他の国でも確認することができた。これらの国・地域ごとの相違は、教員免許制度と大きく関係している。例えば、教員養成課程のカリキュラムが免許制度によって制限される場合には、哲学や歴史といった分野が中心となるであろう。しかし、逆に教員養成カリキュラムの柔軟性がある場合には、状況は大きく変わる。教職教育としての比較教育学教育の目的および内容に関しては、自国の教育理解を促進させる目的を掲げている事例を確認することができた³⁰⁾。この点は、他国との比較を通して自国の教育理解を深めるといふ、比較教育学の基本的目的に沿うものである。

最後に、専門教育に関してであるが、これは諸国において確認できたが、特に欧米諸国で見られた。この点に関しては、情報の限界性と関連しているかもしれない。授業の内容・目的に関しては、確認された7事例中4事例で比較教育学の理論と方法を習得することが挙げられており、学部レベルの専門教育として、いわゆる概念的な内容となっていることが分かる。さらに自国特有のコンテキストへの対応の必要性に応じて、授業の内容は多岐にわたっている。例えば、マウリ民族問題を授業で扱うニュージーランドのカンタベリー大学では、人種隔離の歴史を持つ南アフリカを対象とした内容構成となっている。さらに、イギリスのローハンプトン大学では、対象地域がEUと非EUというように二分法で語られており、EUを意識した内容となっている。

おわりに

以上、本稿では比較教育学の授業に関して、そのカリキュラム上の位置づけの特徴を一般教養教育、教職教育、専門教育という三つの型に分類して明らかにし、限られた情報の範囲での授業の内容および目的から類型ごとの授業の特徴を考察してきた。収集した事例は、3類型に分類することができたため、それぞれの類型ごとの特徴を考察することが可能となった。一方で、それぞれの国の制度的な差異から、類型ごとに事例の集中する国、地域が異なる。そこで、特徴は、特定の国または地域の比較教育学教育の特徴であるとも捉えられる。

それぞれの類型の教育は、異なる目的を持って行なわれるため、授業も類型間で異なる特徴が見出されてしかるべきであろう。しかし、総じて、類型間で明確な差異は見出しにくい。つまり、必ずしも類型ごとに異なる比較教育学教育が存在するわけではない。しかし、僅かながら、比較教育学の特定の側面が他の類型よりも強調される傾向や、扱われる課題の傾向が他の類型と異なる傾向が明らかになったことで、授業の位置づけに応じた工夫が伺える。

このような諸外国の比較教育学教育の傾向は、カリキュラム上の位置づけに応じた比較教育学教育の在り方を示唆する有用な情報となる。ただし、各類型の比較教育学教育において何を教えるべきかという内容を検討するための示唆を得るためには、授業内容の詳細な分析が必要である。本稿では内容の検討を射程外としたため、別の機会に発表したい。

【注】

- 1) わが国においては、比較教育学教育の状況を明らかにするために質問紙調査が断続的に行われてきた。1987年には馬越により、1995年と1999年には日本比較教育学会の研究委員会と紀要編集委員会事務局により調査が行われた。馬越徹「比較教育学教育の課題と方法－アンケートの調査結果から－」『名古屋大学教育学部紀要』第34巻、1987年、271-286頁。桑原敏明他「比較教育学教育－その内容・方法を考える－」『比較教育学研究』第19号、1993年、130-160頁。日本比較教育学会紀要編集委員会事務局「比較教育学教育の現状と課題－全国動向調査－」『比較教育学研究』第25号、1999年、67-77頁。
- 2) 馬越は「比較教育学教育の歴史と現状」の中で比較教育学の学科目化運動が結実しなかったこと、および、一部の大学の講座制は比較教育学教育を普及させる原動力とはなりえなかったことを述べている。馬越、前掲論文、272-273頁。日本比較教育学会紀要編集委員会事務局、前掲論文、74頁。
- 3) 馬越、前掲論文、281頁。
- 4) 「比較教育学教育－その内容・方法を考える－」では、経験を踏まえたシラバスと教材の作成の事例の紹介と検討がなされている。桑原敏明他、前掲論文144-156頁。
- 5) アルトバックらは、米国の比較教育学会（Comparative and International Education Society）、および世界比較教育学会（World Council of Comparative Education Societies）の会員を中心に質問紙調査を行ない、21カ国における80以上の比較教育学教育のプログラムとセンターおよび450人の担当教員の存在を明らかにした。この調査が対象としたプログラムおよびセンターは、比較または国際教育学研究者が専任職員として配属され、最低4つの大学院レベルの講義を含む大学におけるプログラムおよびセンター、またはそれらに準ずる名称を持つ組織である。質問項目は、組織の名称、所属（例、教育学部）、教員の氏名、職名、専門、そして、提供する授業名とそこに登録する学生数および、そこで使用される教科書である。アルトバックらは、これらの項目を含む81の教育組織に関する情報を国毎に整理したリストを提示するとともに、組織の所在や教科書の言語を根拠として、アングロ・サクソン系の国におけるプログラムや研究が比較教育学教育の中心にあることを指摘し、そこから周辺国に研究者が輩出されているであろうという仮説を示した。また、リストから日本を含む東アジアに比較教育学の発展

- が著しいことを指摘し、これらの国の比較教育学の研究課題が、政府の資金源のガイドラインに沿うものとなっていることを指摘している。Philip G. Altbach, *Comparative and International Education: Global Inventory, revised edition*, Graduate School of Education Publications, 1995, pp. vii-xxi.
- 6) 掲載された授業科目の名称、開講年度、指導者に関する情報、単元名を含む講義の概要、および授業担当者が用いる教科書、推奨する学術誌といった項目に整理されたデータベースが公開されている。<http://www.luc.edu/schools/education/ciegsa> (2006年9月24日閲覧) を参照のこと。
- 7) 授業情報の収集に際しては、「比較教育学」、「比較国際教育学」を講義の名称とすることを確認した事例に関して、大学名、学部・学科、課程・専攻、講義名および講義コード、単位、履修学年、期間、必修/選択、開講年度、担当者名、目的、内容の概略を可能な限り明らかにした。
- 8) 現地調査を行なった国の中で、ドイツ、タイ、カンボジア、サモアでは授業例が確認されなかった。中でも、ドイツ、サモアにおいては教育学部のあるすべての大学を調査し、「比較教育学」「比較国際教育学」という名称を含む授業がないことを確認した。ただし、ドイツでは、比較教育学教育が成されていないわけではない。「比較教育学講座」において「様々な文化や社会における教育」等、多様な名称の授業科目が設置されている状況が明らかになった。しかし、これらの授業は本稿で対象としていない。また、タイにおいては、現地で4大学を対象とした調査を行なった結果、「比較高等教育」等の授業は確認できたが、「比較教育学」「比較国際教育学」を名称に含む授業は確認されなかった。中国においては、現地の大学にて収集した情報を分析の対象としている。インドネシアでは、1事例を確認したが授業名以外の情報が得られなかったため分析対象としなかった。ベトナムでは2事例を確認した分析が完了していないため、本稿では扱っていない。
- 9) 例えば、フランスに関しては、教育省のホームページに掲載された一覧表をもとに国立の86大学を対象として検索し、確認した2事例を分析対象とした。また、アメリカの場合は、カーネギー分類(2000年版)において博士/研究大学、修士大学、学士大学に分類される1415大学を対象として検索し127事例を確認した。その中で、現在34事例を対象として分析が完了している。
- 10) 各国の制度に従ってレベル分けをしたため、必ずしも各国で同等の分類とはならない。例えば、EUの統一制度が適用されている大学では、学部教育は3年間となっている制度に準拠して分類している。
- 11) セント・メアリーズ大学(カナダ)、ミネソタ大学モーリス校、ケンタッキー大学、ペロイトカレッジ、エモリー大学、ペンシルベニア州立大学ユニバーシティパーク校、スミスカレッジ、ロワン大学、カラマズーカレッジ、アドリアンカレッジ、コルゲート大学(以上、アメリカ)。
- 12) ケンタッキー大学の比較教育学のシラバスによる。シラバスは、<http://www.uky.edu/Education/EPE/epe555Fa05bg.doc> (2006年9月24日閲覧) を参照のこと。
- 13) 学部では東北師範大学(中国)、国立政治大学(台湾)、サウド王大学(サウジアラビア)、シリア大学、ダマスカス大学、アルバート大学(以上、シリア)、アル・アッハール大学(パレスチナ自治区)、西オーストラリア大学(オーストラリア)、カンタベリー大学(ニュージーランド)、ユバスキュラ大学(フィンランド)、ハッターズフィールド大学、ウェールズ大学バンカー校、キール大学、ロエハンブトン大学、イーストロンドン大学、ウルヴァーハンブトン大学(以上、イギリス)、ペロイトカレッジ、コルゲート大学、バツサーカレッジ(以上、アメリカ)、トレス・デ・フェブレロ国立大学、ファスタ大学(以上、アルゼンチン)、エルマンソウラ大学、ヘルワン大学、10月6日大学、アスイット大学、ミニア大学(以上、エジプト)、ベニ・ワリッド大学、カリユニス大学(以上、リビア)における事例。
- 14) サウド大学(サウジアラビア)、国立嘉義大学、新竹大学(以上、台湾)。
- 15) 国立政治大学、国立台湾師範大学、暨南国際大学(以上、台湾)、ベニ・ワリッド大学(リビア)。
- 16) フリボーグ大学(スイス)、シリア大学、ダマスカス大学、アルバート大学(以上、シリア)、東北師範大学(中国)、暨南国際大学(台湾)、トレス・デ・フェブレロ大学(アルゼンチン)。
- 17) アル・アッハール大学(パレスチナ)、国立台湾師範大学、国立嘉義大学、新竹大学、暨南国際大学(以上、台湾)。
- 18) 東北師範大学、華東師範大学、浙江大學(以上中国)、カンタベリー大学(ニュージーランド)、ヘルシンキ大学、オウル大学、タンペレ大学、トゥルク大学(以上、フィンランド)、キール大学、ローハンブトン大学、イーストロンドン大学、ウルヴァーハンブトン大学(以上、イギリス)、ブラッセル自由大学(ベルギー)、アミアン大学、レユニオン大学(フランス)、マラハ大学、オビエド大学(以上、

- スペイン), フリボーグ大学 (スイス), ウィスコンシン大学ミルウォーキー校, トリニティカレッジ, ロワン大学, コルゲート大学, ベロイトカレッジ, エモリー大学, ペンシルベニア州立大学ユニバーシティパーク校, スミスカレッジ, バッサーカレッジ, ワシントンカレッジ, オハイオ州立大学 (以上, アメリカ), クィーンズ大学 (カナダ), モロン大学, サン・アンドレ大学, サンマルチン国立大学, J.F. ケネディー大学, プラタアドベンティスタ大学, クヨ国立大学, サン・ルイ大学, パタゴニアアウストラル国立大学 (以上, アルゼンチン) における事例
- 19) マラハ大学, オビエド大学 (以上, スペイン), サンタマリア・デ・ロス・ブエノスアイレスカトリック大学, アルゼンチン J.F. ケネディー大学, プラタアドベンティスタ大学, サン・ルイ国立大学, パタゴニアアウストラル大学 (以上, アルゼンチン), オハイオ州立大学 (アメリカ)
- 20) 浙江大学 (中国), イーストロンドン大学 (イギリス), ピカルディ・ジュール・ベルン大学, レユニオン大学 (以上, フランス), モロン大学, サン・アンドレ大学 (以上, アルゼンチン), トリニティカレッジ, コルゲート大学 (以上, アメリカ)。
- 21) 華北師範大学 (中国), キール大学 (イギリス), マラハ大学 (スペイン), ブラッセル自由大学 (ベルギー), モロン大学 (アルゼンチン)。
- 22) 東北師範大学 (中国), オウル大学, タンペレ大学 (以上, フィンランド)。
- 23) 浙江大学, マラハ大学, ブラッセル自由大学, モロン大学, サン・アンドレ大学, サンタマリア・デ・ロス・ブエノスアイレスカトリック大学, アルゼンチン J.F. ケネディー大学, クヨ国立大学。
- 24) クィーンズ大学, ワシントンカレッジ, バッサー

- カレッジ, スミスカレッジ, ペンシルベニア州立大学ユニバーシティパーク校, エモリー大学, ベロイトカレッジ, コルゲート大学, コルゲート大学, ロワン大学, トリニティカレッジ, ウィスコンシン大学ミルウォーキー校, レユニオン大学, オビエド大学。
- 25) 華北師範大学, カンタベリー大学, キール大学, ローハンブトン大学, イーストロンドン大学, マラハ大学, タンペレ大学, プラタアドベンティスタ大学, サン・ルイ国立大学, オハイオ州立大学
- 26) ピカルディ・ジュール・ベルン大学。
- 27) 東北師範大学, ローハンブトン大学, オウル大学, モロウ大学, モロウ大学, コルゲート大学, ペンシルベニア州立大学ユニバーシティパーク校, トリニティカレッジ, ベロイトカレッジ, エモリー大学。
- 28) ウィスコンシン大学ミルウォーキー校, ロワン大学, ベロイトカレッジ, バッサーカレッジ, ワシントンカレッジ。
- 29) 東北師範大学, ベロイトカレッジ。
- 30) 学部レベルでは, サウド王子大学が挙げられるが, 例えばクィーン大学の場合は, 大学院レベルではあるが, 授業名「比較教育学: 比較的視点から見たカナダの教育」からも明らかのように, その目的には, 自国の教育理解の側面が強調されている。なお, この授業は専門教育としては学部レベルのものである。

なお, 本稿は広島大学大学院教育学研究科比較・国際教育学研究室による共同研究の成果の一部である。共同研究には筆者の他に, 中矢礼美 (広島大学), 渡邊あや, 下村智子 (日本学術振興会特別研究員), Amel Ahmed Hassan Mohamed, 卜部匡司, 植村広美, 牧貴愛, 潘建秀, 崔玉潔, 角田梢, 西住有紀子 (以上, 広島大学大学院生) が参加した。